

種目 美術（1/1枚目）

発行者名 調査の観点	日本文教出版	開隆堂出版	光村図書出版
<p>1 内容</p> <p>(1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。</p> <p>(2)生徒の発達段階に対して配慮しているか。</p>	<p>(1)「目標」と「内容」</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての各単元ごとに学習指導要領に沿った育成すべき三つの柱に基づく「学びの目標」が生徒向けの言葉で明示され、まともな活動や評価の観点に活用しやすい工夫が見られる。 「表現」と「鑑賞」の相互の関連を図った授業展開ができるように、一つの題材にマークで明示し、一体的に学習できるよう工夫している。 楽しく美術に触れられるように掲載画像が選定されており、切り抜き写真の多用など、レイアウトが見やすくなるよう工夫している。 「あなたの美をみつけた」などの学習内容で、身の回りの生活の中で活用されている美術に結び付けて考え、他教科との関連を図ることができるように工夫している。 <p>(2)「発達段階」に対する配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1学年では図画工作からの接続への配慮として、親しみのある題材を選定するなど興味を抱きやすい工夫が見られる。第2・3学年上では、伝統工芸など、幅広い題材を取り上げ、第2・3学年下では課題解決型の学習を中心に、社会と未来のデザインを考えるなど、学びの広がりが題材を掘り下げて探究することができる配慮が見られる。 発想、構想の手だてを示し、発想のヒントとなる補助資料が掲載され、生徒が自ら考えを広げられるよう配慮をしている。 	<p>(1)「目標」と「内容」</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての各単元ごとに学習指導要領に沿った「学びの目標」が観点別に明示されて、生徒のふりかえりに役立つ工夫が見られる。 掲載題材を「表現中心」と「鑑賞中心」に分け、美術2・3では、「鑑賞で学ぶこと」を別途1つの章として設け、系統的に美術鑑賞を学べる工夫をしている。 「日本らしさ」のページを、美術2.3に集中的に取り上げ、日本の文化や魅力を大切にしながら、グローバルな視点を育てる内容に力を入れている。 美術の力がどのように生活や社会に役立っているのか、関連した美術文化に関わる内容が幅広く取り扱うことで、生徒の興味関心を喚起する内容に配慮している。 <p>(2)「発達段階」に対する配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際に制作している様子や、発想を広げる手だてなどが多く示されており、生徒がイメージをもって取り組めるよう発達段階に応じた興味関心を高める工夫が見られる。 第1学年では題材に合わせた生徒作品の掲載が多く、作品制作のヒントとなる配慮があり、第2・3学年では、作家の作品を多く掲載し、より発展的な学びを深められるような紙面の工夫が見られる。 	<p>(1)「目標」と「内容」</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての各単元ごとに学習指導要領に沿った目標が明示されて、その題材でどのような造形的な見方・考え方を働かせることができるか分かりやすく示している。表現方法、もの見方など、制作順序など丁寧に示され、活用できる内容になっている。 「表現」と「鑑賞」が一体的に学習できるよう、先生、生徒のキャラクターを登場させ、吹き出しの言葉で、ヒントを提示し、相互の関連を図った授業展開ができるよう工夫している。 題材によって、工程が細かく掲載されており、生徒が見通しをもって制作に取り組めるような紙面内容である。 各単元のバランス良く配置されており、制作途中での参考資料的な使い方も想定でき、教員の指導の一助となる。 <p>(2)「発達段階」に対する配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> 全2冊で、第1学年は、基礎的な技能が身に付きやすいよう、具体的な制作の手順などが分かりやすくまとめられており、第2・3学年は、生徒にとって身近な漫画や、生活に浸透したデザイン、世界的な現代アートなど、多岐に渡った作品を掲載している。 第1学年では、図画工作からのつながりを考える記述がある。第2・3学年では、歴史や社会との関係につなげて考えるなど、学年の発達段階に配慮した構成となっている。
<p>2 構成上の工夫</p> <p>(1)重点調査項目「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。</p> <p>(2)構成・分量等、生徒の発達段階を十分に配慮しているか。</p>	<p>(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本や世界を代表する作品が、見開きのページや裏表紙に筆致や細部が確認できるほど大きく掲載され、実物に近い大きさで鑑賞することができ、生徒の気付きを促し、主体的・対話的で深い学びにつなげられるような構成となっている。 アーティストや美術に関連する著名人の言葉をはじめ、生徒作品の作者の言葉まで簡潔に掲載するなどの工夫が見られ、作品への思いなどを考え、美術の学びを促す配慮が見られる。 <p>(2)構成上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領に示されている「共通事項」への気付きを促す「造形的な視点」を分かりやすく提示し、目標と学びの内容が、関連付けられていることを生徒自らが意識できる問いかけがある。 「分野を示すインデックス」や「表現と鑑賞」はマークで領域を簡潔に示すなど、題材ごとに一目見て分かりやすい構成となっている。 題材が見開きで構成されており、A4ワイド版のため写真の掲載が大きく、文字の分量や大きさも、発達段階に配慮された工夫が見られる。第2・3学年は上下2冊(第1学年は1冊の計3冊)に分かれており、発達段階に応じた掲載内容の豊富さの一助となっている。 	<p>(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本や世界を代表する作品が、見開きのページに筆致や細部が確認できるほど大きく掲載され、作品鑑賞で、生徒の気付きから、対話的で深い学びにつなげられるような作りとなっている。また、専門用語の説明などの記載があり、発展的な知識の習得にも配慮しており、理解を深めながら進められる内容になっている。 第1学年では題材により、対話の写真に掲載するなど具体的にイメージが持てるよう紙面の工夫が見られ、第2・3学年では「暮らしに生きる美術」として社会で活躍する人たちからのメッセージを多く掲載するなど、他者との社会的なつながりなどを学び、深められる配慮がある。 <p>(2)構成上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 見開き2ページで1題材を基本として構成し、題材の軽重により大判図版の掲載や観音開きページを設けるなど、変化のある紙面づくりとなっている。 第1学年では文字数を活用するための配慮に工夫が見られる。 第2・3学年では作者の言葉を掲載するなど、発達段階に応じた構成となっている。 A4ワイド版の装丁で、第1学年1冊、第2・3学年は1冊の2分冊にまとめている。1冊のページ数は多く、ボリュームのある内容である。 	<p>(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> 各領域の扉に、学ぶ内容や学習内容の魅力をメッセージとして伝えるような工夫があり、生徒が、導入で自ら主体的に学びに向かえるような紙面構成となっている。 すべての題材において最初に鑑賞活動ができるように作品掲載があり、生徒が主体的・対話的で深い学びに自然と取り組めるような問いかけを示している。 <p>(2)構成上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒作品や有名作家の作品など、参考となる資料がバランスよくレイアウトされている。また表現や鑑賞、絵や彫刻およびデザインや工芸は、偏りのない構成となっている。 「表現中心の題材」「鑑賞中心の題材」と領域が明示されており、学習の内容がイメージしやすくなるよう配慮が見られる。また、印刷紙の素材を変えるなど、鑑賞をする際に興味をもってもらえるような工夫が見られる。 A4版の携帯しやすい装丁で、第1学年1冊、第2・3学年1冊の計2冊の構成に、制作手順等の説明が細かくされており、発達段階に合わせて理解しやすいように工夫された内容である。
<p>3 情報活用能力の育成に関する配慮をしているか。</p> <p>(1)生徒の情報活用能力を育む構成となっているか。</p> <p>(2)生徒一人一人がコンピュータを活用できる工夫がされているか。</p>	<p>(1)「情報活用能力」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 目次に教科書の使い方のページがあり、教科書の使い方が分かりやすく、インデックスを利用した「目標」「造形的な視点」などが分かりやすく提示してあり、生徒自らの情報活用能力の向上に向けた配慮が見られる。 日常生活から発見できる美術との接点や各地域の美術館の紹介が多数あり、授業以外の時間で情報を活用する糸口を分かりやすく説明している。 各単元の導入の言葉に創意工夫が見られ、作家の発想方法の紹介など示したり、またページ中の資料が大きく多いため、生徒の興味関心を喚起する工夫が見られる。 教科書の巻末に「学びを支える資料」のページを設け、鑑賞資料や技法のページがあり、生徒が主体的に作品づくりに取り組める構成になっている。年表の近現代の取り扱いが、充実しており、生徒がより身近に感じられる資料が多く、大きく分かりやすい。 <p>(2)ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 掲載されている「QRコード(全47リンク)」に、生徒が自らアクセスすることで、彫刻を360度の立体として鑑賞したり、技法の動画を見たりすることができるように、ICTの活用を図りながら学習できる。 第2・3学年下には、「動画をつくる」ことについて掲載されており、これからのICT活用能力の育成について積極的に取り上げている。 	<p>(1)「情報活用能力」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 目次に、教科書内のマークについての説明があり、「目標」「QRコード」などが分かりやすく表示してあり、「学習のポイント」などを明示し、生徒自らが主体的に情報活用が図れるよう配慮している。 作家だけでなく、様々な分野で活躍する社会人を紹介し、美術を通してキャリアの育成に興味関心を持ち、生徒自らが、考え情報を活用するための配慮に工夫が見られる。 内容説明が必要などところについては、詳細に記しているなど、構成に強弱を付けている。 ページ構成は落ち着いており、画像や文章の視認性が高いレイアウトとなっている。巻末に「学びの資料」のページを設け、鑑賞資料や技法のページがあり、生徒の興味関心に応じて利用できるように充実しており、分かりやすい。 <p>(2)ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 題材の表題の横に「QRコード(全75リンク)」が掲載されており、所蔵先へのリンク、アーティストの紹介コンテンツなどが工夫され、教科書掲載以外の作品例、動画があり、ICTの活用を図りながら学習できる。 美術2・3の巻末に「映像メディアを活用する」「漫画の試み」「アニメーションの技法」などの項目があり、興味関心に応じてICT機器の活用を図る題材を示している。 	<p>(1)「情報活用能力」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 目次に、教科書内のマークについてシンプルにまとめてあり、各ページの「目標」などが分かりやすく表示してあり、「他教科とのつながり」などを明示し、生徒自らの興味関心に応じて教科横断的な情報活用ができるよう配慮している。 鑑賞題材を「特別展示室」などにまとめて大きく扱い、生徒の表現活動につなげていく構成になっている。また、表現題材では、制作の過程を多く説明しているため、生徒が自ら情報を活用していくことに有用である。 教科書に、トレーシングペーパーを綴じ込み、直接書き込みができるように工夫し、日本画や版画のページでは特別な紙質を用意するなど、生徒がより実感的に情報を触れられるように配慮している。 巻末に「学習を支える資料」のページを設け、鑑賞資料や技法のページがあり、生徒の興味関心に応じて発展的な作品作りに利用できるように充実している。 <p>(2)ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ページの下に「QRコード(全37リンク)」が表示され、それぞれ技法・全国の生徒作品例などのコンテンツへリンクしている。また、動画以外の教科書掲載作品の音声ガイドも用意し、多様な学びの形式をにつながるようなICT活用に積極的である。 美術2・3の巻末に「映像で広がる世界」などの項目があり、興味関心に応じてICT機器の活用を図
<p>4 使用上の便宜</p> <p>(1)教員にとって、使いやすくなるための配慮がされているか。</p> <p>(2)生徒にとって、読みやすい表現であるか。</p> <p>(3)地域性に対して配慮しているか。</p>	<p>(1)指導者への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1学年用、第2・3学年上下の3冊で構成されており、絵・彫刻、デザイン・工芸、技法・鑑賞など分野ごとに整理されており、指導教員の授業計画に沿って活用しやすい工夫となっている。 東日本大震災をきっかけにした作品や戦争の悲劇を描いた作品を特集し、自然災害、平和や人権への意識を高め、何ができるのかを考えさせる題材を用意し、教科横断的に「生きる力」の育成に積極的である。 <p>(2)ユニバーサルデザインへの配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元のテーマごとのねらい、目標などが明示され、ユニバーサルデザインの観点から、生徒の授業への取り組みを容易にしている。また、色覚に特性のある生徒に対しても、色名が覚えやすい表記に工夫がある。また中学校以上で学ぶ漢字にルビを振るなど、多様な生徒への配慮が見られる。 タイトルや本文には、UD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用し、インクルーシブ教育への配慮が見られる。 <p>(3)地域性に対する配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国の様々な造形活動や美術館の取り組みを紹介するとともに、題材に、生徒の生活に身近なものを取り入れたり、各地の伝統工芸を掲載したりするなど、生活と地域とのつながりを意識した授業を進めることができる。 	<p>(1)指導者への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> 全2冊で構成され、絵・彫刻、デザイン・工芸、学びの資料に分かれている。さらに表現または鑑賞の題材どちらかを表示している。 学習の目標の提示が、生徒に呼びかける言葉になっており、導入の取り組みやすさに工夫がある。また安全指導への配慮が書かれており、教員が指導しやすい工夫が見られる。 <p>(2)ユニバーサルデザインへの配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> 色彩のページなどユニバーサルデザインに取り組まれており、生徒の理解力の向上に配慮している。また、中学校以上で学ぶ漢字にルビを振るなど、多様な生徒への配慮がなされている。 使用フォントのほとんどには、UD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用し、インクルーシブ教育への配慮が見られる。 <p>(3)地域性に対する配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の47都道府県の地域の伝統行事や工芸品を紹介し、美術との関連について取り上げ、美術を通して身近な郷土に対して関心が持てるようにしている。 	<p>(1)指導者への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞をする際に興味をもてるように工夫している。紙の素材を変える、西洋と日本の流れなど関連付けが見られる。 彫刻刀など安全指導への配慮が書かれており、教員が指導しやすい工夫がある。 <p>(2)ユニバーサルデザインへの配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> ページ構成のレイアウトは落ち着いていて、目に付きやすく分かりやすい見出しやアイコンを用いて、学習の流れを捉えやすく、視認しやすい工夫をすることで、ユニバーサルデザイン的な配慮をしている。また、中学校以上で学ぶ漢字にルビを振るなど、多様な生徒への配慮がなされている。 年表やキャプションなど、小さい文字には、UD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用し、インクルーシブ教育へ配慮している。 <p>(3)地域性に対する配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> 「季節感のある暮らしを楽しむ」などで、和菓子や着物などを掲載し、四季の美しさを暮らしに取り入れてきた伝統文化の魅力を考えさせたり、「地域の魅力を伝える」ためのパッケージデザインや、アイヌの伝統文化と琉球王朝の文化を比較するなど、地域と美術の結び付きを分かりやすく説明している。
<p>5 その他</p>	<p>(1)SNSや情報モラルについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 肖像権や知的財産権への配慮を注意喚起している。 <p>(2)SDGs(持続可能な開発目標)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「SDGs」のロゴマークを用いたポスターの作品例や、「人が生きる社会と未来」の項目を取り上げ、自然との共生、環境と美術との関連を掲載し、持続可能な開発目標の学習に積極的である。また、諸外国の生徒作品を掲載し、グローバル視点の育成に取り組んでいる。 <p>(3)オリンピック・パラリンピックについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京2020オリンピックとシドニーオリンピックのポスターが比較紹介されており、また、パラリンピック選手の競技用具の写真や選手コメントが掲載され、オリンピック・パラリンピック教育の一助となっている。 	<p>(1)SNSや情報モラルについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1学年の美術館へ行こう、第2・3学年の映像メディアを活用するページに肖像権、著作権についての詳しい説明がある。 <p>(2)SDGs(持続可能な開発目標)について</p> <ul style="list-style-type: none"> SDGsのうち、目標11「住み続けられるまちづくりを」に関連して建築物のリノベーションについて大きく取り上げている。 <p>(3)オリンピック・パラリンピックについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 「東京2020オリンピックスポーツピクトグラム」をデザイン分野で掲載しており、オリンピック・パラリンピック教育の一助となっている。 	<p>(1)SNSや情報モラルについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1学年の「コラージュ」、第2、3学年の「写真や、映像を撮影する」で、SNSの取り扱い、著作権、肖像権について触れている。 <p>(2)SDGs(持続可能な開発目標)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「節電やCO2削減をテーマとしたポスター」の制作、「平和の大切さを訴える-ヒロシマ・アピールズ」など、多方面からSDGsに関連した内容を取り上げ、持続可能な開発目標の学習に積極的である。 <p>(3)オリンピック・パラリンピックについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 「印象にのこるシンボルマーク」で、オリンピックのピクトグラムについての作品例や、競技用車いすのデザインを説明している。